

福島直樹の「就活の常識を疑え！」－ 「ズバリお答え！就活にまつわる疑問」(その2)

第五回「ズバリお答え！就活にまつわる疑問」(その2)

Q. 広告業界志望なのですが、親が反対しています。親は公務員になってくれというのですが、どうしたらいいのでしょうか？

A. う～ん、そうですね。では親と相談して決めてください。このような相談をすること自体、幼稚な気がしますが、まあいいでしょう。僕は次のように考えます。

・親が金融を進める理由を詳しく聞いてみる（「金融＝安定」という理由であれば、そういう時代ではないのですが）。

・あなたが広告を志望する理由が曖昧なため、親が納得していないのでは？

・親を納得させられないようでは、面接担当者を納得させるのは難しい気がします。

・実は僕も親に公務員をすすめられました。まったく意に介しませんでした。

・親の意見で自分の気持ちが揺れるということは、広告業界への志望意欲がそもそも高くないか、親への依存度が高い人なのではないか？

・社会人になるということの意味の一つは自立することでもあります。

・親はあなたの人生の責任をとってくれません。というか誰も責任を取ってくれません。

以上です。

Q. 僕は肌が白いのですが、日焼けした方が精悍な印象になって有利と聞きました。日サロに行くべきでしょうか？

A. 確かに色白は弱々しい印象を与えるかもしれません。しかしそれでも希望の企業から内定を取った人はいくらでもいます。

どちらでもいいのですが、色白であることで自分に自信が持てないのであれば、日焼サロンに行くのもよいかもしれません。

しかしもっと大切なことが山ほどあるような気がします。

Q. エントリーシートに貼る写真は、見た目が重要視されるので、プロに撮ってもらった方がいいのでしょうか？

A. 確かに見た目はバカになりません。プロのカメラマンに撮ってもらうのもよいでしょう。

しかしあまりに素敵に写り過ぎて（修正を入れ過ぎて）、現実のあなたからかけ離れてしまうのも問題です。

採用担当者が違和感を感じない程度にしておきましょう。

まあ、普通の写真で成功しているケースもたくさんありますが。

Q. 趣味の欄に「読書」や「音楽鑑賞」と書くのは、ありふれているのでよくないと聞いたのです

が。また「ゲーム」や「アニメ」と書くのも問題アリでしょうか？

A. 「読書」や「音楽鑑賞」が一概にダメとは言い切れません。あなたが無趣味な人間で、「趣味については突っ込まれたくない」のであれば、このような書き方で問題ないでしょう。

ゲーム、アニメもそこからあなたの人柄や魅力が伝わるのであれば、問題ないはずです。

ただあなたの対人コミュニケーションに問題があり、趣味が「ゲーム」や「アニメ」ですと、採用担当者は少し不安を感じるかもしれませんが。

Q. 自己PRで「体が丈夫」と書きたいのですが、書いてもいいのでしょうか？

A. 健康であることはいいことです。しかしそういう人はたくさんいます。もっと他にアピールできることはありませんか？

企業は仕事で活躍してくれる人を求めています。

「体が丈夫」であることはそのための必要条件の一つですが、十分条件を満たすとは言えないでしょう。

Q. 自己PRで「留学経験」のエピソードはよくないと聞いたのですが…

A. 確かにこのような噂は最近よく耳にします。その理由としては、「留学経験」の自己PRは似たような話が多いからかもしれません。

「初めは右も左もわからず、ホストファミリーともうまくコミュニケーションできませんでした。しかし～～なことがあり、～～に努力することで、信頼関係を作ることができました。勇気を持って踏み出すこと重要性を学びました。云々」

というような話が多いのです。

・このような話でも、その後の質疑応答であなたの答に説得力があれば、評価されることは十分ある。(その後の質疑応答のレベルを上げるためには、前に説明した「5 X 5のQ & A」が有効)

・自己PR以外の部分に説得力があれば、評価される可能性はある。

・この自己PRをさらに進化させることで説得力が出ることは十分ある。

・進化させるためには自分なりの「課題解決の方法」、「成果を出すコツ」を考えてみるとよい。

・どうにも進化しない、あるいはその後の質疑応答も陳腐であるなら、別のエピソードを考えてみてもよいかもしれない。

Q. 自己PRや志望動機の欄の最後に「よろしくお願いします」と書いたほうが良いと聞きました。書くべきなのでしょうか？

A. どちらでも結構です。

ということで楽しいQ & A講座はおしまいです。

* 詳細は、福島直樹の「就活の常識を疑え！」 で確認してください。

井田晃記